兵庫・時友（ときとも）遺跡

1　所在地　兵庫県尼崎市武庫之荘八丁目
2　調査期間　第七次調査　一九九六年（平8）六月～八月
3　発掘機関　尼崎市教育委員会
4　調査担当者　小林公治・大川勝宏
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　鎌倉時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、尼崎市の北西端に所在し、旧地名で時友・友行地内に広がっている鎌倉時代の集落跡で、伊丹礫層を基層とする標高約一一mの台地上に立地し、周辺は宅地化が進んでいる。中世には野間荘の一部であったと考えられている遺跡である。

（大阪西北部）

既往調査は小規模かつ単発的なものが多いため、詳細なデータは少ない。一九七〇年の山陽新幹線建設に先立つ第一次調査では、今回の調査区のすぐ北側で掘立柱建物・土坑が見つかっているが、集落の全体像は不分明なままである。今回の阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に伴う第七次調査では、井戸二基、溝五条、土坑七基、ピット多数が検出されたが、遺構面は伊丹礫層まで削平されており、建物などは確認できなかった。

木簡は二基の井戸から出土している。SE一からは、埋土最下層付近から和泉型瓦器椀、同安窯系青磁椀、平瓦片などに伴って(1)の卒塔婆形木製品が、SE二からは同様に最下層付近から土師器皿、和泉型瓦器椀、漆器椀、曲物、木匙などに伴って(2)の木簡が出土している。いずれも共伴する瓦器椀の編年観から一二世紀後葉から一三世紀初頭頃のものとみられる。

8　木簡の釈文・内容

SE一

(1)　「□□□□□□〔南無カ〕」　(343)×27×5　061

SE二

(2)　「〈　。
一日百部□□□」　261×44×5　032

(1)(2)いずれも墨痕は消失しており、腐食の差で墨書部分がわずかにレリーフ状に浮き上がって遺存していた。(1)は下端が折損する。

(2)は表面左端が剝離し、「日」の横に穿孔がみられる。「一日」は「百」の可能性も考えられる。

9　関係文献

尼崎市教育委員会『尼崎市内遺跡　復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』（一九九九年）

（大川勝宏）

(1)

(2)